

財団からのご挨拶

上原記念生命科学財団は、昭和58年3月に他界いたしました故上原正吉氏（元大正製薬株式会社社長、会長）の足跡を記念するとともに、大正製薬株式会社の創業70周年記念事業として、昭和60年2月に設立され、基本財産の収益金により昭和60年度より生命科学に関する研究に従事されている方々に対する研究助成を中心に、生命科学研究上の功績が特に顕著であると認められた方々に対する褒賞（上原賞）や、国際シンポジウムの開催等、事業活動を進めております。

近年、様々な可視化技術の進展にともない、生体内の現象が可視化され、病態解明や診断・治療にまで使われるようになりました。また、光によって生体を操作することも可能になり、今後も更に新しい技術の発展が期待されます。こうした革新的な新技術は、基礎的研究から医療への応用まで、今後更に広く貢献するものと思われまます。

この度、中西重忠先生、戸山芳昭先生をはじめ諸先生方の格別のご尽力によりまして、当財団主催の第12回国際シンポジウム「生体を見る・操る新技術の開発」(Make Life Visible)を開催できる運びとなりました。皆様のご関心も高いものと思ひます。

ご参加を心よりお待ちしております。

平成28年9月

理事長 上原 明

顧問

会長 上原 明（理事長、大正製薬ホールディングス株式会社代表取締役社長）
顧問 上原 茂（評議員会議長、大正製薬株式会社代表取締役社長）
大平 明（評議員、大正製薬ホールディングス株式会社取締役相談役）
上原 健（常務理事、大正製薬株式会社代表取締役副社長）

生体を見る・操る新技術の開発

1. 生命現象の可視化・操作
2. 病態の可視化
3. 可視化技術の診断・治療応用

12th Uehara International Symposium 2017

Make Life Visible

1. *Visualizing and Controlling Molecules for Life*
2. *Imaging Disease Mechanisms*
3. *Imaging-based Diagnosis and Therapy*

ANNOUNCEMENT

June 12 - 14, 2017
Hyatt Regency TOKYO
JAPAN

2017

Sponsored by
UEHARA MEMORIAL FOUNDATION



〒171-0033 東京都豊島区高田 3-26-3
TEL: 03-3985-8400, FAX: 03-3982-5613
E-mail: mail85@ueharazaidan.or.jp
URL: <http://www.ueharazaidan.or.jp>

ご案内

この度、上原記念生命科学財団の主催により、「生体を見る・操る新技術の開発」(Make Life Visible)と題する国際シンポジウムを、2017年6月12日～14日の日程で開催いたします。

近年、可視化技術の進歩は目覚ましいものがあり、従来は全く不可能と思われていたものが可視化され、疾患等の病態解明から診断・治療にまで大きな貢献を果たしています。さらに光工学、光遺伝学という、広い意味での可視化技術は光によって細胞や生体を操作できる革新的な技術であり、今後さらなる発展が期待されています。

このような可視化技術に関しては、分子イメージングから臨床画像に至るまで、我が国の基礎・臨床研究は世界をリードしております。広い意味での可視化技術を駆使した革新的、独創的、先進的研究が更に発展し、また、個々の研究が相互に関わる横断的研究領域を模索しつつ、それらが融合した新しい技術の開発も期待されます。

こうした研究の支援を目的として、上原記念生命科学財団は3年間の研究プロジェクトとして、第9回特定研究「生体を見る・操る新技術の開発」を設定しました。本特定研究では、基礎的研究から臨床応用に至るまでの三分野を対象にして、19名の日本人研究者を選出し、2015年より研究を開始しました。

この国際シンポジウムでは、第9回特定研究の成果をふまえ、国内19名の研究者に加えて、海外の第一線の研究者約10名を招待し、可視化技術を中心にした最先端の研究成果が発表されます。

本シンポジウムは、次の3つのセッションで構成されています。

- Session 1. Visualizing and Controlling Molecules for Life
生命現象の可視化・操作
- Session 2. Imaging Disease Mechanisms
病態の可視化
- Session 3. Imaging-based Diagnosis and Therapy
可視化技術の診断・治療応用

このシンポジウムにおいて、基礎的研究から臨床(診断・治療)で展開されている可視化技術を中心にした最新の研究成果と将来展望、新戦略が提示されることを期待いたします。

多数のご参加をお待ちしております。

国際シンポジウム組織委員会
委員長 戸山 芳昭

シンポジウム会場

ハイアットリージェンシー東京

〒160-0023 東京都新宿区西新宿2-7-2
TEL: 03-3348-1234

スケジュール

2017年6月12日(月)～14日(水)

12日(月) 開会挨拶 / 開会講演
Session 1 Keynote
Session 2
Session 3

13日(火) Session 2 Keynote
Session 3
Session 1

14日(水) Session 3 Keynote
Session 1
閉会挨拶

公用語

英語(同時通訳は行いません)

組織委員会

名誉委員長 中西 重忠(京都大学 名誉教授)
委員長 戸山 芳昭(慶應義塾大学 名誉教授)
副委員長 宮脇 敦史(理化学研究所)
中村 雅也(慶應義塾大学)
陣崎 雅弘(慶應義塾大学)
委員 船曳 和雄(先端医療センター研究所)
浦野 泰照(東京大学)
藤林 康久(放射線医学総合研究所)

参加申し込み

参加ご希望の方は、上原記念生命科学財団ホームページよりお申込み下さい。

URL: <http://www.ueharazaidan.or.jp/>

受付期間: 2017年4月1日(土)～5月31日(水)

参加費: 無料

講演者

はじめに: 中西 重忠(京都大学 名誉教授)
開会講演: 戸山 芳昭(慶應義塾大学)

Session 1: Visualizing and Controlling Molecules for Life

Keynote: Karl Deisseroth Stanford University
Scott E. Fraser University of Southern California
Evan Miller University of California, Berkeley
Lihong Wang Washington University
今吉 格 京都大学
上村 想太郎 東京大学
菊地 和也 大阪大学
清光 智美 名古屋大学
月田 早智子 大阪大学
船曳 和雄 先端医療センター研究所
宮脇 敦史 理化学研究所

Session 2: Imaging Disease Mechanisms

Keynote: Apkar V Apkarian

Northwestern University
Ulrich von Andrian Harvard Medical School
Mark Schnitzer The James H. Clark Center
岡部 繁男 東京大学
白井 幹康 国立循環器病研究センター
Smith Nicholas Isaac 大阪大学
田中 元雅 理化学研究所
中村 雅也 慶應義塾大学
柳沢 正史 筑波大学

Session 3: Imaging-based Diagnosis and Therapy

Keynote: Sanjiv Sam Gambhir

The James H. Clark Center
Denis Le Bihan CEA Saclay Center, FRANCE
Hisataka Kobayashi National Cancer Institute
Geoffrey D. Rubin Duke University School of Medicine

石井 優 大阪大学
浦野 泰照 東京大学
梶島 健治 京都大学
陣崎 雅弘 慶應義塾大学
藤林 康久 放射線医学総合研究所
渡邊 恭良 理化学研究所

おわりに: 戸山 芳昭(慶應義塾大学)

※講演タイトルを含め最終的なプログラムは、財団HPでご案内いたします。